



# 十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第53号



5月3日の太素行列



太素行列とともに太素塚に到着した  
中央商店街の御神輿



太素行列の皆さん  
(左から岩間副会頭、新渡戸館長代理、中野渡市長、石川会頭)



5月5日太素祭イベント  
十和田中学校吹奏楽部の演奏



太素行列を迎えるまつりびと囃の太鼓



5月3日前夜祭で挨拶する  
石川正憲太素頭彰会会長



5月5日太素祭イベント  
龍神太鼓の演奏



5月3日太素祭イベント  
太素ウォーク 2008

## 稲生川上水150年の日をむかえて

本年、三本木原総合開発・稲生川上水150年の節目を迎えました。太素頭彰会では皆様の協力を得て、5月3日～5日の太素祭を皮切りに今年一年様々な記念事業を開催します。開拓当時集客の諸施策を行ったことは新渡戸十次郎の「三本木平開業之記」に詳しく記されておりますが、上水150年記念事業もまた地域の経済、農業の活性化につながることを願っております。稲生川の恵み豊かに、本年の豊作とご多幸をお祈り申し上げます。

合併から3年目にあたる本年は、十和田市現代美術館のオープンや市立中央病院本館開院等、新生十和田市にとって記念すべき事柄が多く、後世に残るものと思われまます。当館におきましても節目の年に思い新たに、市民の宝である「先人の文化遺産」を一層活用し「地域に根ざした行動する記念館」を目指していきたくと存じますので、今後共何卒宜しくご協力とご支援をお願い申し上げます。



太素祭前夜の式典で挨拶する  
新渡戸明館長

## 8月16日 稲生川の灯ろう流しが35年ぶりに帰ってきます

- 稲生川上水150年記念事業 稲生川灯ろう流し ■開催日時：平成20年8月16日(土) 18:15太素塚集合  
 ■開催場所：太素塚に集合の後、稲生川(稲生川土地改良区北側付近)へ移動し、灯ろうを流します。  
 ■お問い合わせ：太素頭彰会事務局 0176-24-1111 (十和田商工会議所内)



# NEWS

## 5月3日～5日 太素祭 新渡戸記念館イベント

### クイズで探検! ニトちゃんとまなぼう!!



記念館マスコット  
ニトちゃん

稲生川上水150年を記念する春まつり太素祭（市観光協会・十和田市・十和田商工会議所・太素顕彰会／共催）が太素塚境内を中心に5月3日から5日まで行われました。3日間で約2万2500人の人出となり、記念館の入館者数は約3900人となりました。記念館ではクイズ大会「クイズで探検！ニトちゃんとまなぼう!!」を開催し、参加者736名中371名の方が全問正解しました。景品として記念館出版物や新渡戸稲造の著書『武士道』、新渡戸稲造グッズなどを準備し、全問正解者から抽選で50名の方に贈呈しました。



クイズ大会は大人から子供まで幅広い年齢層の方が楽しんでいました

## 稲生川上水150年記念として発行 「歴史ガイドブック」カラー改訂版

稲生川上水150年を記念し、「十和田市・三本木原開拓と新渡戸三代の歴史ガイドブック」のカラー改訂版を太素祭にあわせて発行しました。平成10年に発行した同ガイドブックを10年ぶりにフルカラーで編集しなおすとともに、同年7月に十和田市で行われた東京女子大学松川成夫名誉教授による講演「開拓の申し子稲造～その魂と言葉の世界～」を新たに収録しています。その他写真資料を多く加え、より充実した内容となっていますのでぜひ一読下さい。

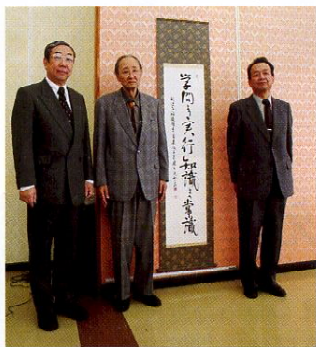


カラー改訂版 歴史ガイドブック  
(平成20年5月4日 3000部発行・頒布価格900円)

## トピックス

### 新渡戸稲造の言葉 「学問より実行 知識より常識」の 掛け軸を寄贈いただく

三沢市在住の安田恭吉さんから新渡戸稲造の言葉「知識より常識 学問より実行」の掛け軸〔三沢市在住の書家・山白義明さん（雅号：溪雲）の揮毫〕1点を寄贈いただき、3月28日（金）平成19年度太素顕彰会第3回役員会において贈呈式が行われました。この掛け軸は稲生川上水150年記念特別展『稲造少年は見た～新渡戸一族の三本木原開拓～』で展示しました。



いただいた掛け軸と安田恭吉さん(中央) 右・石川会長、左・新渡戸館長

### 太素塚銅像周囲の池 循環ポンプの修繕と 錦鯉の寄贈

太素塚境内の銅像周囲の池の水を循環させるポンプを修理しました。それとともに、十和田錦鯉センター 小山田惇さんより錦鯉8尾を寄贈いただきました。中には体長50センチほどのものもあり、赤や白の美しい姿が太素塚を訪れる人の目を楽しませています。



循環ポンプが修繕された太素塚銅像周囲の池

### 稲生大権現の獅子頭を寄贈いただく

稲生大権現は、明治時代中期、三本木消防組頭をしていた安野為教氏（新渡戸傳から屋号・天と安野姓をもらった清兵衛の後継）が、消防団員をはじめとする稲生町の青年の健全育成を目的として始めたもので、地域の権現舞として継承されていました。高度成長期を経て村や町の共同体の結束が弱まり、稲生大権現も後継者不足のため継続が難しく、今年4月獅子頭を所有していた安野祐功さんより寄贈いただきました。



稲生大権現獅子頭



開催報告

稲生川上水150年記念・国際博物館の日記念  
平成20年度特別展

稲造少年は見た

—新渡戸一族の三本木原開拓—

2008年5月1日(木)～6月29日(日)

稲生川上水150年ならびに国際博物館の日(5月18日)を記念して開催する今展では、新渡戸稲造が少年期に見た三本木原開拓について、自らの幼少期を綴った英文の著書『幼き日の思い出』(原題“Reminiscences of Childhood in the Early Days of Modern Japan”)などをもとに紹介しています。

稲造少年が見た三本木原開拓

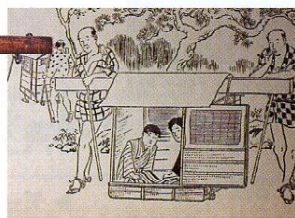
三本木原開拓の産業開発では、稲造の父・十次郎が中心的な役割をしましたが、特に養蚕については稲造の母・せきが養蚕場取締をつとめています。せきは稲造が生まれる前年文久元年(1861)4月1日、盛岡から三本木に到着し奥瀬の養蚕場へ出向いています。

また、開拓により誕生した新町・稲生町が旅人の心に残る町となるよう「名物菓子の開発」も行われていますが、慶応3年(1867)十次郎は盛岡油町の菓子職人・八太郎を雇い入れて会所(開拓事務所)の者たちに菓子製作の指導をさせました。十次郎の三男・稲造は当時5才でしたが、盛岡の自宅に京都や大阪の菓子職人を呼んで菓子の製作指導を行っていたことを記憶しています。稲造によると菓子の作り方は企業秘密であるため、大人たちは人に見られないように夏の暑い日に蚊帳の中で菓子をつくっていたそうです。幼い頃に目の当たりにした開拓に苦勞する家族の姿は稲造に強い印象を残しています。



当館所蔵の駕籠

稲造は8歳の時、東京の叔父・太田時敏(傳の四男)の養子になり、兄・道郎とともに上京していますが、当館所蔵の駕籠はその時兄とともに乗ったものとして著書『幼き日の思い出』の中に写真と挿絵で紹介されています



著書『幼き日の思い出』の挿絵



三本木原開拓が稲造に与えた影響

明治9年(1876)7月12日明治天皇は東北御巡幸の折、三本木原開拓事務所に御小休され、祖父・傳や父・十次郎の行った開拓を御嘉賞になり、御下賜金を賜りました。このお金は記念として新渡戸家一族に分け与えられ、当時14歳だった稲造はそれで聖書を購入しています。稲造は明治天皇の「子々孫々農事に励むように」とのお言葉に深く感動して開拓を志し、当時開拓使を養成する目的で設立された札幌農学校に明治10年(1877)入学しました。

札幌農学校への進学は、後に国際人として活躍する稲造の方向性を決めたといえる重要な意味があります。また、キリスト教への人信もこの札幌時代であり、一族が行った三本木原開拓は直接的、間接的に稲造の人格形成に大きく影響を与えています。



稲造愛吟の和歌などで作成した「新渡戸稲造かるたパネル」をともに展示し、視覚にうたえる構成をこころがけました

開催  
予定

平成20年度 企画展

—太素の森の動植物展—

太素塚 生きもの歳時記

【期間】 2008年8月1日(金)～9月30日(火)

【場所】 新渡戸記念館一階企画展示コーナー

時代の流れとともに自然が失われることを嘆く声を多く聞きます。しかし、そうした中で都市部にまだまだ残る「小さな自然」が見落とされているのではないのでしょうか。十和田市の中心部に位置する太素塚の動植物の生態を通して、身近な自然を再発見する企画展です。

※企画展は通常観覧料で常設展とともにご覧いただけます(十和田市民は無料)





## 稲生川上水150年記念・現代美術館オープン記念・馬事公苑グランドオープン3周年記念 第1回 とわだ3館ミュージアムスタンプラリー開催中!

十和田市新渡戸記念館・十和田市現代美術館・馬事公苑称徳館の3館のスタンプ&クイズに答え応募すると、全問正解者から抽選で100名様にプレゼント!!

- ★新渡戸賞★ 彫刻家・小坂圭二作オリジナル新渡戸稲造コイン 25名様
- ★現美賞★ 常設作品絵葉書&ロゴ入りバッグセット 25名様
- ★駒っこ賞★ 称徳館オリジナルの絵馬&キーホルダーセット 25名様
- ★TOWADA賞★ 駒街道携帯クリーナー&十和田特産ジュースセット 25名様

■用紙配布期間：平成20年5月3日(土)～7月31日(木) ■応募締め切り：平成20年9月30日(火) ※当日消印有効

■用紙は締め切りまでに3館の内いずれかの受付に持参いただくか、下記応募先まで郵送下さい

<応募先住所> 〒034-0082 青森県十和田市西二番町10-9 十和田市現代美術館 スタンプラリー係

※用紙は各館でもらうか記念館ホームページからダウンロードして下さい

[http://www.towada.or.jp/nitobe/pdf/stamp\\_rally.pdf](http://www.towada.or.jp/nitobe/pdf/stamp_rally.pdf)

[協賛：(株)十和田市観光協会]



新渡戸賞として  
プレゼントされる  
新渡戸稲造  
コイン

## mini NEWS

### 資料の寄贈 >>詳細p.2

- ・安田恭吉様(三沢市) 新渡戸稲造の言葉「学問より実行 知識より常識」の掛け軸(山白溪雲さん揮毫) 1点
- ・小山田惇様(十和田市) 錦鯉 8尾
- ・安野祐功様(十和田市) 稲生大権現獅子頭 1式

ありがとうございました

### 関連情報

#### ▶ 稲生川上水150年記念醸造特別限定酒「稲之助」販売開始

稲生川上水150年記念醸造として上十三地区の酒販小売店13店で結成する酒縁研究会(代表小川洋平さん・事務局長 上山一郎さん)で特別限定酒「稲之助」を製造し、太素祭初日の5月3日に販売を開始しました。稲之助は新渡戸稲造の幼名であり、稲造が幼少時代、祖父・傳、父・十次郎が当地で行った三本木原開拓のゆかりから、この幼名を酒名に採用しました。醸造元は十和田市の鳩正宗(株)で、限定酒ラベルの題字「稲之助」は当館館長が揮毫したものです。

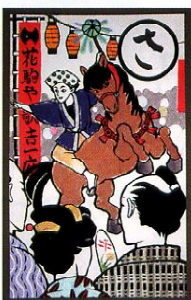


特別限定酒「稲之助」ラベル

#### ▶ 十和田市内2ホテルで当館資料をPRに活用

今年4月稲生町にオープンしたスーパーホテルの季楽亭では、当館平成19年度企画展「三木野八景～伝えたいふるさとの風景～」の関係資料を利用客へ提供するサービスのデザイン等に使用します。また、今年4月リニューアルオープンした十和田シティホテル(旧 旅館しもやま)では、宿泊客に提供する「八甲田おろし」のラベルや店内装飾に、当館平成10年度企画展「新渡戸稲造かるた一歌でつづる稲造の世界」展示パネルを活用することです。当館資料が十和田市の経済活性化に生かされればと思っています。

十和田シティホテルでは、同ホテルの起源・花駒屋歌吉の曲馬を描いたパネルを使用します



### 活動報告

#### ▶ 館長がおいらせロータリークラブ創立40周年記念シンポジウムで基調講演

4月20日(日) 第2019回例会<おいらせロータリークラブ創立40周年記念例会>シンポジウム「奥入瀬川流域の水資源を考える」(レストランカワヨグリーンロッジ1階)で館長が「水による開拓史」と題して基調講演を行いました。

#### ▶ 館長代理が市民大学講座第2回企画運営委員会に出席

4月18日(金) 中央公民館で開催された十和田市民大学講座第2回企画運営委員会に、運営委員として館長代理が出席しました。6月21日(土) 18:30から十和田市民文化センター大ホールで開催される市民大学第1回講座では、館長代理と親交のある俳優の辰巳琢郎さんが講師を務めます。

#### ▶ 「夢追い人」へ館長代理が明山應義さんの絵画についての評論文を寄稿

4月10日(木)「人間情報紙・夢追い人」4月号(4月10日発行)へ館長代理が十和田市中央病院本館に展示された明山應義さん(新制作協会会員)の絵画についての評論文「明山應義先生に寄せる」を寄稿しました。

#### ▶ デーリー東北新聞へ稲生川上水150年カウントダウン記事を寄稿

5月4日に稲生川上水150年を迎えるにあたり、デーリー東北新聞へカウントダウン連載記事「稲生川上水150年記念ーそして台地は潤ったー」(上・中・下/5月1日～3日掲載)を寄稿しました。

### 編集後記

稲生川上水150年の節目に接した事は私にとって大変意義深いものでした。150という数字に続く次の節目は200年。不老不死研究グループ等によると、150年位生きられるという老化現象を抑制させる薬が既に開発されているとかいれないとか。いくらでも生きられるのは有難いけれど、生に執着して世の流れに逆らうのは極めて不自然に思いますが…。50年後、私が元気であれば91歳になっていますが、稲生川の恵みで発展する市の姿を見られる事を願います。(館長代理 新渡戸常憲)

### ■ご利用案内

- ・開館時間：午前9:00～午後4:00
- ・休館日：毎週月曜日(祝祭日は開館)(12/29～1/3)
- ・観覧料：大学生・一般210円(団体178円)
- 小・中・高校生52円(団体42円)※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



## 十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL [www.towada.or.jp/nitobe/](http://www.towada.or.jp/nitobe/)

発行日  
編集・発行

2008年6月1日  
太素顕彰会・十和田市新渡戸記念館  
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
Tel & Fax: 0176-23-4430  
Email: [nitobemm@hi-net.ne.jp](mailto:nitobemm@hi-net.ne.jp)  
株式会社 岩間印刷

印刷